



高橋正光・高橋正光
2020-2021年度R1会長



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2840
TAKASAKI SYMPHONY ROTARY CLUB
Symphony Weekly



No. 19

会長/President 高橋 正 光
幹事/Secretary 齋藤 達 雄
クラブ会報委員長/Committee Man of Weekly Report 大久保 伊津美
第 1 週 2021年1月15日(金)
例 会 毎週金曜日
 点 鐘 12時30分
例 会 場 ホワイトイン高崎
事務所/Office

高崎市本町144-1 光明第7ビル202号室
 T E L 027-328-3371
 F A X 027-328-3372
<http://www.takasakisymphony-rc.org>
 E-mail:sym@po.wind.ne.jp

事務局員/Office worker 浅見 洋子
本日のプログラム 会長の日 高橋正光会長
 クラブ協議会

ロータリーソング 君が代、奉仕の理想

第1106回例会報告

第3週 12月18日(金) 会場：ホワイトイン高崎
 会員卓話

「自己紹介」
 福田夕紀子君



御来訪者/Visitor 1名
 米山奨学生 梁 綺桐さん

出 席 報 告

会 員 数	51名
出席計算人数	48名
本日出席者	37名
本日出席率	77.08%
先々週出席率	85.42%

幹事報告/Secretary Report

- ・神戸東灘RC週報
- ・Rotary Club of Wahiawa-Waiialua週報
- ・ハイライトよねやまVol.249
- ・例会変更(各クラブより)
- ・令和2年度「緑の募金」の結果報告とお礼について(高崎市緑化運動推進委員会)

ロータリー財団寄付表彰

- ・マルチプル・ポール・ハリス・フェロー第1回
 白石隆夫 君



委員会報告/Committee Report

ニコニコBOX/Donator Niconico Box

- 白石 隆夫君 (今年は大変でした。来年もがんばりましょう)
- 高橋 正光君 (メリークリスマス!)
- 宮口 昌利君 (")
- 山崎新太郎君 (")
- 西園 勲君 (")
- 三村 浩司君 (")
- 山口 俊彦君 (一年間ありがとうございました)
- 八木建司朗君 (一年お世話になりました)
- 船渡川信幸君 (")
- 清水 雄至君 (")

ロータリー財団BOX/Donator Rotary Foundation

- 高柳 一成君 白石 隆夫君 山口 俊彦君
- 柴崎 晟君 長井 典夫君 山崎新太郎君
- 齋藤 達雄君 三浦 敦朗君 泉 省平君
- 西園 勲君 浦野 幸男君

米山奨学会BOX/Donator Yoneyama Scholarship

- 白石 隆夫君 高橋 正光君 山口 俊彦君
- 宮口 昌利君 柴崎 晟君 齋藤 達雄君
- 泉 省平君 小野垣義男君

クリスマスプレゼントをお持ち帰りいただきました。

- ・「素晴らしきかな人生」のブルーレイ(会長のメッセージを添えて)



・シクラメン





次回例会予定

1月22日（金）通常例会
会員卓話（予定）

2021-2022年度 井汲会長エレクト挨拶



クリスマススペシャルメニュー



ポールハリスの生い立ち3

横山 正男

1893年10月、クラーク大理石会社に復帰したポールは、セールスマンとして南部各州やバハマ諸島、キューバを回った後、1894年には、買い付け代理人として、スコットランド、アイルランド、ベルギー、イタリアの採石場を回るほど、その手腕を発揮しました。

彼はこの機会を利用して英国を始め、大陸の殆どの国を見聞する機会に恵まれました。帰国したポールは、新しく住宅部門を開発して、クラークの片腕として活躍しましたが、当初の計画であった五年間が間近に迫ってきました。クラークはあらゆる有利な条件を出して彼を引きとめようとしたのですが、ポールの決心は変わりませんでした。

「私は弁護士です。私は金を稼ぐためにシカゴに行くのではありません。私の人生を切り開く目的で、そこに行くのです。」

アメリカ国内は勿論のこと、ヨーロッパ全土まで足を延ばして見聞を広める一方で、旅の先々での生活の糧を得るために、ありとあらゆる職業を経験しながら、やっとシカゴに定住して弁護士事務所を開設したのは、1896年2月27日のことでした。

世の中の全ての職業が有用であることは、数多くの職業を遍歴したことによって得られた実感であり、この経験なしには、一人一業種という職業分類のアイデアはおろか、ロータリーを設立すること自体も思い浮かばなかったに違いありません。

ヨーロッパの各国を訪れたことがロータリー運動の国際化を促すヒントになったと同様に、1893年に万国博を見るためにシカゴを訪れたことは、彼の心にシカゴの将来性への期待を抱かせ、生活の場を決定する大きな要素ともなりました。なお、この万国博の日本館で米山梅吉が通訳として働いていたという記録がありますので、もしもポールが日本館を訪れていたとしたら、最初の出会いがあったかも知れません。

1898年にはハリス・アンド・ドッズ共同事務所を開設して、その地位を不動のものにしました。

1900年、故郷を今一度見たいという衝動に駆られたポールは、ウォーリングフォードを訪れます。そこで、多くの親友たちと再会したポールは、そのような友情をシカゴの町でも得られないだろうかと考えます。シカゴ法曹協会やプレス・クラブの会員になったことから、ポールの交友関係は広まって、多くの公式な会合にも出席するようになりました。その一方で、持ち前の放浪癖を發揮しながらシカゴの町の隅々まで探索しました。また日曜日には、ありとあらゆる宗派の礼拝にも参加しました。多くの友達ができましたが、ウォーリングフォードにおける友情とは比較するすべもありませんでした。

1900年のとある夏の日、彼は弁護士仲間の友人と夕食をとった後、夕方の冷気に吹かれながら散策を楽しんでいました。友人の弁護士が街路樹に沿って歩いていると、すれ違う人たちが親しげに声をかけてきます。彼は、親しく付き合っている多くの実業家や商人たちをポールに紹介してくれました。思わずポールは声を出しました。「もしも、このような堅実な人たちとたびたび会うことができれば、どんなに楽しいことだろう。それぞれの業種から一人の人が社会的に集まれば、そこに友情が生まれるかもしれない。」

